

福岡県医発第1929号（地）

平成16年 1月30日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 関原 敬次郎



今冬におけるインフルエンザの臨床経過中において脳症を
発症した患者の発生動向調査について（依頼）

寒冷の候 貴職益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今冬におけるインフルエンザの臨床経過中において脳炎・脳症を発症した患者の発生動向調査への協力をお願いについては、平成16年1月16日付（福岡県医発第1855号）をもってお送りしておりますが、今般、厚生労働省インフルエンザ脳症研究班班長からの文書について、別添のとおり差替え依頼がありました旨、福岡県保健福祉部より連絡がありました。

つきましては、貴職におかれましてもご了知の上、貴会会員への周知方よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

記

・変更の主な内容について

1. 従来の研究から、本症が急性脳炎ではなく、急性脳症であることが明らかとなったため、「インフルエンザ脳炎・脳症」を「インフルエンザ脳症」と変更した点。
2. 厚生労働省インフルエンザ脳症研究班班長の文書中、「また、今年度からインフルエンザ脳症と病名を統一することにしました。」の文章を加えた点。
3. 昨シーズンは、小児の抗インフルエンザ薬が「導入」されましたが、今シーズンは「普及」と考えられるため、この点で語句を変更した点。
4. これらについて、連絡票とその説明文について同様の変更を行った点。

小郡三井医師会より

担当理事 友清 明





「公印省略」

15健結第312号の2
平成16年1月20日

福岡県医師会長
福岡県病院協会長 殿
福岡県私設病院協会長
全国自治体病院協議会福岡県支部長

福岡県保健福祉部健康対策課長
(結核感染症係)

今冬におけるインフルエンザの臨床経過中において脳症
を発症した患者の発生動向調査について（依頼）

保健福祉行政につきましては、平素より格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記について、さきに15健結第312号保健福祉部健康対策課長通知で依頼したところですが、その際添付しました平成15年12月20日付け厚生労働省インフルエンザ脳症研究班班長からの文書について厚生労働省から別添写のとおり差し替えの依頼がありましたのでお知らせいたします。

つきましては、貴管下の医療機関への周知についてよろしくお取り計らいください。

記

・変更の主な内容について

1. 従来の研究から、本症が急性脳炎ではなく、急性脳症であることが明らかとなったため、「インフルエンザ脳炎・脳症」を「インフルエンザ脳症」と変更した点。
2. 1の説明文「また、今年度からインフルエンザ脳症と病名を統一することにしました。」の文章を加えた点。
3. 昨シーズンは、小児の抗インフルエンザ薬が「導入」されましたが、今シーズンは「普及」と考えられるため、この点で語句を変更した点。
4. これらについて、連絡票とその説明文について同様の変更を行った点。



平成 15 年 12 月 20 日

各 都道府県
政 令 市 衛生主管部(局)長 殿
特 別 区

厚生労働省インフルエンザ脳症研究班
岡山大学大学院小児医科学



今冬におけるインフルエンザの臨床経過中において
脳症を発症した患者の発生動向調査についてのお願い

標記と同様の調査につきましては、平成 15 年 1 月から 5 月までの 5 ヶ月間にわたってご協力いただき、合計 121 例の確定例を報告いただきました。新興・再興感染症研究事業、インフルエンザ脳炎・脳症研究班（班長 森島恒雄）による解析の結果、平成 11 年及び 12 年の致死率が約 30%であったのに比べて、平成 15 年度は死亡率 19%（同平成 13 年度 15%）とやや改善の傾向が見られます。また、本症がインフルエンザ A・香港型の流行時に、より高頻度で発症することなども分かってきました。しかしながら、未だに多くの子どもが神経後遺症を残しています。サイトカインや血管内皮細胞の障害が、本症の病態の上で重要な位置を占めることが明らかになりつつあり、これらに対する治療法が少しずつ進歩しているのが致死率の低下につながっているかもしれません。

従いまして、今後とも引き続きこの疾病に対する詳細な検討が必要であると認識した次第です。とくに本シーズンも昨年に引き続き、インフルエンザ脳症を起こす頻度が高い A・香港型の大きな流行が危惧され、加えて、抗インフルエンザ薬の普及による本症の動向も重要な点です。また、今年度からインフルエンザ脳症と病名を統一する事にしました。

今冬におきましても、昨年と同様、インフルエンザの臨床経過中に脳症を発症した患者の発生動向調査を実施することといたします。つきましては、貴管下の保健所及び地方衛生研究所並びに関係医療機関等のご協力が得られるよう、格別のお取り計らいをお願いします。また、後日、本発生動向調査につきまして、厚生労働省結核感染症課よりご協力のお願いが届くと思います。宜しくご高配の程お願い申し上げます。

記

昨年度同様、直接インフルエンザ脳症研究班森島恒雄までご報告いただけるようお願いいたします。

1. 報告について

(1) インフルエンザの臨床経過中において脳症を発症した患者を診断あるいは検索した医師は、最寄りの保健所に対し連絡いただくものとする。

(2) 連絡を受けた保健所は、別添「連絡票」の各項目を記入し、速やかに本庁所管課に連絡していただく。

(3) 連絡を受けた本庁所管課は、記入された「連絡票」をファックスにて、平成15年1月以降、速やかに岡山大学小児科 森島宛送付するものとする。

(ファックス番号：086-221-4745)

(4) 報告の対象とするインフルエンザは、①臨床診断のみによるもの、②臨床診断に加え、家族に既にインフルエンザウイルスの確定診断がなされている例と疫学的な関連が考えられるもの、③臨床診断に加え確定診断がついているもの、とする。

なお、インフルエンザの臨床診断とは、39.0度以上の発熱、呼吸器症状、頭痛を伴って急激に発症するものとし、確定診断はウイルス分離あるいは抗原の直接的検出（迅速診断キットを含む）があったものとする。

また、脳症の診断は、発熱及び何らかの意識障害を伴うものとし、いわゆる熱性痙攣は除くものとする。

2. 調査期間について

平成15年12月1日から平成16年5月末日まで

3. ご連絡いただいた症例につきまして、後日さらに詳細な解析を目的とした二次アンケート調査を医療機関に送付したいと考えております。

4. 以上の情報の収集および解析、結果の発表につきましては、患児およびご家族のプライバシーについて、十分な配慮を行っていきます。

「 連 絡 票 平成 16 年用 」

(インフルエンザ脳症患者発生動向調査)

F A X 送付先：岡山大学医学部小児科 森島恒雄 FAX 086-221-4745

都道府県等記入欄

都道府県名 _____ 担当者氏名 _____

報告番号 _____

保健所記入欄

報告保健所名 _____ 担当者氏名 _____

報告医の所属 _____ 氏名 _____

・患者の性別 [男・女] ・患者の年齢 (歳 ヶ月)

○ インフルエンザについて

・発 症 日 平成 年 月 日

・今冬にむけてのインフルエンザワクチン接種歴 [有・無]

・家族での類似症状発生の有・無 [有・無] (どちらかに○を付ける)

・診断について (該当番号及び該当項目に○を付けたうえ必要事項を記入)

1. 臨床診断のみによる場合

2. 臨床診断に加え検査で確定された例と疫学的に関連のある場合

3. 臨床診断に加え確定診断がついている場合

ウイルス分離：[A ソ連型、A 香港型、B 型]

抗体価 HI： _____ 倍 → _____ 倍 [A ソ連型、A 香港型、B 型]

迅速診断キット [A 型] [B 型] [A 型もしくはB 型]

○ 脳炎・脳症について

・その状況になった日あるいは入院日 平成 年 月 日

・その状況及び経過

・意識障害の持続時間 約 () 時間

・転帰 [1. 死亡 2. 回復 (後遺症 [有・無]) 3. 経過観察中]

(該当項目に○を付ける)

○ 転院の有無

・もし転院した時、その転院先 _____

○ 解熱剤の使用状況について

・使用しなかった

・アセトアミノフェンを使用した

・その他の解熱剤を使用した 商品名 _____

・不明

○ 抗インフルエンザ薬の使用について

・抗インフルエンザ薬を使用した

・抗インフルエンザ薬を使用しなかった

・不明

注：保健所記入欄は、原則として保健所において記入していただきますが、必要に応じて報告医に対し本連絡票をF A X等により送付し、記入して頂く場合があります。ご協力をお願いします。

厚生労働省インフルエンザ脳症研究班